

平成 29 年度 学校関係者評価委員会 議事録（1 回目）

実施日：平成 29 年 6 月 27 日（火）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティール専門学校 校長）
福澤寿和（愛知県理容生活衛生同業組合 理事長）
中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）
山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）
市川千恵子（PTA 役員）

順不同

欠席者：委員 尾関之一（ベリーバイヘアースポットオゼキ経営）
平成 29 年 6 月 22 日（木）にベリーバイヘアースポットオゼキにて
意見等を聴取し会議に報告する。

オブザーバー

丹羽 豊（学校法人 愛知理容学園 副理事長）
森山郁子（アリアーレビューティール専門学校 事務主任）
山口 孝（アリアーレビューティール専門学校 広報主任）

委員会次第（概要）

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
職業実践専門課程の告示に関する報告とお礼
- (3) 委員改選に伴う新委員の自己紹介
- (4) 専修学校における学校評価ガイドライン概要の説明
- (5) 平成 28 年度自己評価の報告
- (6) 平成 28 年度学校関係者評価委員による評価まとめ
- (7) 平成 29 年度学園新聞の報告
- (8) その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。
(詳細は後記のとおり)

(8) 閉会

終わりに、校長から平成 29 年度は第 2 回目を平成 29 年 12 月 11 日または 12 月 18 日に行う予定である旨の報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

○福澤寿和 委員

まず始めに、東海北陸理容競技大会に理容科・美容科の全学生が見学に来ていただいたことに対するお礼がある。

評価項目 (3) に関して、教職員研修の反省・課題であるが、サロンでもそうであるが、人材育成をしながら、また同時に経営面を考えないといけないので、労基法との関係で大変な面がある。学校でも、意思疎通をしっかりとしながら教員を育ててほしい。(5)の学生支援に関して、公的奨学金の利用者はどのくらいいるのか。またどのような種類があるのか教えてほしい。(8)の財務ですが、いかにして学生を確保していくかが結局問題になってくる。そこに対する動きはどのような事をしてきたのかお伺いします。また学生の声聞くうえで、アンケートからの収集がメインのようですが、廣瀬委員からもお話がありましたが、アンケートを活かしてほしい。(強い口調で言われる。)学修成果で退学率のお話もありましたが、生徒のためにも収集した声は最大限活かしてほしいと思います。生徒が可哀想。

(学校側)：東海北陸大会の見学は卒業生の顔もたくさんあり、社会での活躍が垣間見れ、とてもよかったです。また在校生もこの見学を糧にして技術大会をがんばってくれると思います。教職員研修ですが、学修成果の面からすると、研修が教育の質の改善・向上につながっているとは言えない。福澤委員の言う「意思疎通」は職員会議の少なさからも言えることで、現在は最低月 1 回行っていますが、アンケ

ートの活用をしっかりとしていく上でも十分な体制が必要であると思います。公的奨学金の利用について（森山主任より報告）は以前に比べて利用者が多くなっている事、また返済に関し滞納する者（卒業生）がいることを報告する。学生確保の観点では、学校に来ていただく「体験入学」の工夫はもちろんですが、社会貢献・地域貢献も兼ねて消費者イベントに出かけ学校広報をしています。28年度は報告の通り「今池まつり」のみですが、今年度は「今池まつり」にプラスして、4月に久屋公園の「名古屋地協メーデー」そして来月7月は瀬戸市商店街の「マルシェ」にネイルブースを出して学校の魅力を伝えます。また愛知県庁から商店街の活性化の一環として学校の参画を依頼されており、森山主任が対応しております。「待つ」だけでなく、「出向く」努力を大事にしようと考えております。アンケートに関しては、従来、入学式直後と卒業式直前に行っておりましたが、今年度から進級時にもアンケートを取り、授業や就職等についての声を拾っております。学校としては、これを基にどう行動したかをしっかり行っていきます。

○中川信子 委員

評価項目（7）に関して、高校訪問が例年と比較し件数が減少とありますが、理由は何ですか？(1)の教育理念ですが、学生は授業に一生懸命で理念まではなかなか落とし込みがウチではできていません。(3)の授業評価体制ですが、ウチでは年2回学生による全教員対象のアンケートを実施しています。そしてアンケートを全員が見ます。評価が低い方は来年以降雇用継続をしません。ただ校長も間に入って両方の声に耳を傾けるようにしています。

(学校側)：高校訪問の件数減につきましては、出願真近の例年8月に、来年4月の入学候補者（予定者）を分析するのですが、その際、こちら側での見立てが甘く、最後（最終的な）の高校訪問からの情報が少なく、結果機会損失があったかということでもあります。当然、教員配置や教材費用にも影響する訳であります。授業評価は卒業式直前に任意に2名の教員を学生が選び実施しておりますが、それを以前は一部の主任クラスだけで中川委員の学校のように全員が見ていた訳ではありません。現在も相対的な面でのアンケート結果は全員が閲覧しますが、個人の授業評価はプライバシーに配慮してか全員が見てはいませんし、当事者も見えません。活かしているとはまったく言えません。

○川野公稔 委員

評価項目 (2) に関して、人事、給与に関する事ですが、弊社では賞与は年 3 回ありまして、3 月の期末賞与の際、年間個人別シート、自己評価、上司評価、役員評価を行い本人にフィードバックしています。

(学校側)：賞与等において評価をし、賃金格差をつけている以上、ルールの整備が必要ですが、現在当校の就業規則にはなく、また内規も存在しません。生産性向上のための人事評価制度と賃金制度の整備を通じて、生産性の向上・賃金アップ及び離職率の低下を図り、人材不足の解消に努める必要があります。評価項目 (3) の人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保する上で重要と考えます。

○近藤文峰 委員

評価項目 (3) に関し、授業評価は 3 ヶ月に 1 度、自身の授業をビデオ録りし、東京本部に送るシステムになっています。このように、学園本部が授業チェックするシステムと、在校生が全員授業評価をしています。在校生へのアンケートは「入学前とどう変わりましたか」というスタンスで行っています。

(学校側)：入学者アンケートでは、入学に至る経緯や動機の部分を中心に、また卒業式直前には、教員評価及び学校生活全般について実施しておりますが、今年度から始めた進級時のアンケートでは、「学生の履修指導および学修相談・助言が、学生の多様性(履修歴や実務経験の有無)を踏まえて適切に行われているか」「単位修得、修了状況、資格取得の状況等から判断して、意図している学修成果があがっているか」「教育課程の編制や教育内容が、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向を反映しているか」等の観点から実施し、入学した当時との気持ち・モチベーションの維持また残り 1 年間の学校生活の動機づけに役立てようとい行いました。

○山田資喜 委員

評価項目 (1) に関し、学生に対する学校理念等の落とし込みですが、まずは現場の教職員がいかにか共有しているか、ここが大事であると思います。伝えるのは先生であって「伝え方」が大事。「こうだからこうだよ」と知らせないと落とし込みは難しいと思います。毎月 1 回 3 校(名古屋・一宮・岡崎) 合同の校長・教頭会議がありますが、「やり方」に関しては各校舎に権限が与えられています。(5) 学生支援の卒業生に対する支援体制ですが、卒業後の追跡調査を行っています。方法として

以前は就職先サロンに直接電話をして本人と話をしていましたが、周りの目もあり、現在は郵便で行っています。サロン側にも求人説明会等で事前に調査をする旨を伝えています。求人票等と実際の現場との食い違いが発生していないか等の声を拾い上げている。「学校楽しい」→「就職厳しい」→「離職率」につながらない様、注意しています。

(学校側) : 28年度の反省を踏まえて理念等を教室内に掲示したり、随所で唱和したりしていますが山田先生がおっしゃるように内容を理解していないと適当に念仏を唱えているだけになってしまいます。「伝え方」はこれからも見直しをしていきます。卒業生の把握は当校でもアンケートを実施しましたが回収がそれほどなく成果とまでは行きません。来校してくれた際に情報交換をし、他の卒業生の様子もわかるのが実情です。担任は知っているけれども、学校として記録が残せていない。この業界を将来担っていただきたいのが、学校の最終目的なので離職率に関してはアリアーレでも気にしています。

○廣瀬麻美 委員

評価項目 (4) に関し、退学率についてですが、モチベーション維持のため、学生間で教え合う、学生同士で高め合える学級運営をしていったらどうか。一生懸命授業を受けていても隣で寝ている子がいるとげんなりする。退学率減少の一助になると思っています。学生アンケートの活用についてですが、前回の会議で全教職員の周知をお願いしましたが、どのようになっていますか。

(学校側) : 教え合う、与えあうというのは良い試みであると思います。退学する要因は「授業が難しい」とか「成績が悪い」ではなく、人間関係が大きい面があります。クラスメイトのふれあいが広がりますし、コミュニケーションが高まるのが一番です。先生のフォローにもなりますので検討していきます。アンケートの活用に関しては、全教職員に回覧しておりますが、活かしているとまではいいがたいです。何のためにやっているのかの議論を深めます。

○藤原さやか 委員

評価項目 (4) に関し、退学率についてですが、友人同士のいざこざが先生に相談できる雰囲気ではなく、学校を辞めていく状況をよく見て来ました。また先生方も「できない子」や「普段休みがちな子」に対して時間をかけすぎていて、前向きな子が「聞きたいのに聞けない」状況にもなっている。底辺の子の底上げもわかるが、

普通な子、まじめな子の機会損失があると思う。

(学校側)：普段は中堅より少し上の学生向けに授業をしないと中堅が伸びないし、上位の子も危機感を持たなくなる。教え合うではないが、上位層を厚くすると競技大会やモチベーション維持にもつながる。中堅以下の学生は授業後残し、ゆっくり丁寧な指導を心掛けると良いと考えます。色々な学生がおり四苦八苦していますが、目線は同じでありたいと思っています。

○市川千恵子 委員

子どもの学校生活について、満足して学校に行っております。先般の学校見学会にもおじゃましましたが、良好な雰囲気を感じます。子どもには、あまり学校に来ないでと言われていました。(笑)

(学校側)：「信頼関係」を築くための第一歩は、まず、お互いを知ることだと思っております。知らない、わからないということは不安につながり、場合によっては、誤解や不信感の要因になります。学生・教員・保護者との間の信頼関係が深いほど、指導による成果は、より充実したものになります。今後ともよろしく願いいたします。

以上
記録：山口

平成 29 年度 学校関係者評価委員会 議事録 (2 回目)

実施日：平成 29 年 12 月 11 日 (月) 10:00~12:00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一 (アリアーレビューティール専門学校 校長)
福澤寿和 (愛知県理容生活衛生同業組合 理事長)
中川信子 (名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長)
川野公稔 (指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長)
近藤文峰 (第一学院高等学校 教諭)
尾関之一 (ベリーバイヘアースポットオゼキ経営)
廣瀬麻美 (理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生)
藤原さやか (平成 28 年度卒業生)
市川千恵子 (PTA 役員)

順不同

欠席者：委員 山田資喜 (愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事)
平成 29 年 11 月 10 日 (金) に名古屋市中区 紫美容室にて
意見等を聴取し会議に報告する。

オブザーバー

丹羽 豊 (学校法人 愛知理容学園 副理事長)
森山郁子 (アリアーレビューティール専門学校 事務主任)
山口 孝 (アリアーレビューティール専門学校 広報主任)

委員会次第 (概要)

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 専修学校の概要 (学生数・18 歳人口・分野別学生数・職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上、学校評価・情報公開等について)
- (4) 科学技術学園高等学校連携協力について (連携協力に関する基本合意書)
- (5) 専修学校第三者評価実施報告について (専修学校職業実践専門課程第三者評価試行評価基準要綱、入学者卒業生アンケート等分析評価)
- (6) 前回会議からのフィードバック
- (7) その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。
(詳細は後記のとおり)

(8) 閉会

終わりに、校長から平成 30 年度も今年度同様 2 回にわたり、会議を開催したい旨の報告。(日程は後日お知らせする。) また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

次第 (3) (4) (5) を通じての質疑応答

○福澤寿和 委員

第三者評価をされた方はどのような立場の皆さまだったのですか。第三者評価の取り組みに関しては、理容組合としてもあってしかるべき内容であると思います。学校の魅力作りという点 (国家試験 + α) では、国家試験と営業面を分けて考えたらどうか。企業内実習 (インターン) を多く行い、お金をいただくということ、華やかな部分だけではない事 (ウラも見せる) を教えてほしい。日数的には、1 年に 7 日 ~ 10 日ぐらい。現在、サロンでも顧客満足を重視しており、サービス業としてのサロン経験もお願いしたい。学校経営も上 (上司) が動けば下 (従業員) も動く、働く姿を見せてほしい。(学生募集の面について) 組合も協力するし、サロンのお客様を通じた学校紹介も良いと思う。教員も経営感覚を持って業務に励んでほしい。

(学校側) : 第三者評価の皆さんは 6 名お見えになり、専門学校関係者や理美容サロンオーナー、また大学教授や高等学校等学校関係者の方もいらっしゃいました。第三者 (一般社団法人 専門職高等教育質保証機構) による評価基準 (別紙参照) 等に基づき、専門的・客観的立場から行われました。年内に評価結果 (案) が学校に届き、来年 3 月には評価結果の確定・公表になります。企業内実習に関しましては、来年度は今年度より日数を多く取るように計画しております。またインターンでは当然の事ではありますが、実際の職場経験をすることで、職業意識を今まで以

上に深め、学校から就労段階への円滑な移行につなげ、就職後の離職がないよう注意して行っております。学生紹介に関して、色々ご協力を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。

○中川信子 委員

2017 卒業生調査アンケートにおいて学校として卒業生の母校へのロイヤルティが低い及び「本校を勧めたい」という問いに 43.8%しかそのように回答しておらず全国的に低いと分析されているが何が原因と考えているのか。態勢・姿勢はどのようになっているのか。ウチの学校では、無記名でも理由を書かせている。(卒業生調査をどのように行っているかアリアーレからの問いに対して)

(学校側) : 卒業生の段階で 43.8%なので、退学者を含めた入学者数から見るともつと厳しい数字になると思います。先生に対する親近感はあるが、「本校での学生生活は充実していた」という問いも 50%しかいないことを考慮すると、できる子・できない子に限らず、幅広い層で評価が思わしくないと考えています。理容科・美容科で比較すると美容科の方が評価は低い。ただその分理容科が高いという訳でもない。特定の子からしか満足が得られていない現状は前回議論がありました退学者数同様喫緊の課題とっております。現在は今年度より保護者同伴の個人懇談会を年 2 回予定する等話す場を意図的に設けております。できない子にはどんな対策を、できる子にはどんな課題を与えるか等まだまだ弊社職員は「どんな内容を教えればよいか」はわかっているが、様々な学力のある子にどう伝えればよいかはわかっておらず、また学級運営に関しても教職員研修のあり方も含めて勉強を重ねる必要があるとっております。別件ですが、前回の中川先生との意見交換の中で、高校訪問のあり方の話がありましたが、高知理容美容専門学校では毎月 1 回訪問をしているそうです。一層のコミュニケーションを図るためですが、弊社でもできるかぎり考えてみたいと思います。第三者委員会でも「広報活動できていないですね」と言われました。第三者の目線も勉強になります。

○川野公稔 委員

インターンでは「バイトとは違う」「マニュアル通りに行かない」ことを知り、それに伴い学校での学び方や学びたいことがわかったり、変わったりすることもあります。時間を確保し、充実したものになるように工夫してほしい。お尋ねのあった(労働)生産性の向上ですが、学校教職員の人事評価は難しいところがあるのは事実ですし、(評価が)上がる人がいれば、その分下がる人もいて、アンケートを通じた相対的評価を実施することも一考であると思います。教職員 1 人 1 人に責任のある仕事を持たせることは大事であると思います。

(学校側)：企業内研修については産業界等のニーズとのミスマッチにならない様にしなければならないと思います。また変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出すことができる人材を目指したいと思います。教職員の能力評価を学校経営の中で現在行っておりません。人事評価をしてから研修及び研修評価につなげる体制を確立していきます。

○近藤文峰 委員

2017 卒業生アンケートに関して、卒業生が後輩に「勤める・勤めない」の問いに「勤めたい」理由、「勤めたくない」理由を書けるようにしたらどうか。○×だけだと憶測だけが独り歩きしてしまう。(高校からの評価が安定せず、同じ高校からの入学者が続かないことに対して) 第一学院 四日市では以前、鈴鹿高校から 9 名中途入学したことがありました。学校間の相互理解がある程度ありますが、当校から 1~2 分のところに KTC 中央高等学院ができ、生徒募集は厳しいです。

(学校側)：アンケート方法はすぐに改善しようと思います。学生募集に関しては、毎年 1 からのやり直し感がありまして、いつもまったく次が読めない状態です。来年の募集戦略はまだ未定ですが、入学者アンケートを見ると、直近 3 年間で学校を最初に知るきっかけの第一位は「周囲の人」からで情報媒体からの周知等は低い。その辺りの整備が必要と考えています。

○廣瀬麻美 委員

(入学者・卒業生アンケート・保護者アンケート・在校生アンケート等に対する学校の分析結果から) 先生方の各目標や向かっている方向がバラバラに感じ、生徒から見ると求めているものがもらえない、ほしいものがもらえないと感じてしまうから評価は上がらないし、学生募集等次に進むのに時間がかかるのではないか。今でもしっかり生徒の事をよく見て指導されていると思いますが、それ以上のことを求められているのではないか。

(学校側)：学校からの目的・目標の落とし込みが弱いのだと思います。第三者評価委員からも情報共有の欠如を指摘されました。職員会議について以前皆さまにご意見を伺いましたが、満足にできておりません。前回会議でのご発言で、学生同士が教え合う、与えあうという意見をいただきましたが、中日美容専門学校では、4 名グループを作り、技術の見せ合いっこをする時間をたくさん取るそうです。グループの人数が多い (7~8 名) とダメ (携帯とかで遊びだす) で、その 4 名は①できる子、②③普通の子、④できない子 でメンバーを意図的に作り、できる子は教え

る勉強になる、普通の子はステップアップする、できない子はできるようになる
そうです。友だち同士で解説し、その後 1 人代表でみんなの前でやらせ、ズレが
ないかチェックするとの事。4 名全体のコミュニケーション能力も上がるそうです。
また携帯等で動作解析を入れ、やっているところをビデオで撮って確認し、本人
はやっているつもりでもできていないのがわかる。スローにしてどこからできな
くなっているか確認するそうです。弊校の先生にも伝達しました。

○藤原さやか 委員

学校の内部評価はアンケート等によくわかりましたが、実際卒業し働いていると、
アリアーレの事を知らない人がたくさんいる。知られていないことがよくわかる。
学校内に関しては、在校時に感じたのは、「手洗い場・道具の洗い場が少ない」「昼
食時の休憩時間が少ない」「指導や教室内の動線が悪い」と感じていました。

(学校側)：指導方法に関しましては、先ほど廣瀬委員にもお話したように他校の事例を
参考に改善します。前回会議で藤原委員からも底辺の子の底上げはわかるが、普
通の子、まじめな子に対する機会損失等の課題をいただいております。教え方・
生活指導等の研修も足りないと思い、今年 8 月に名古屋市教育委員会の方にお越
し」いただきお話しをしてもらいました。学校生活内部のお話ですが、今期・来
期の修繕の参考にしていきたいと思います。

○市川千恵子 委員

子どもの声からハロウィーンパーティー等色々な経験をさせていただいていると
感じています。定期試験も追われる立場でがんばっていました。別件ですが、中
学校 1 年生の子なのですが、体験入学等に参加してもよろしいのでしょうか。美
容系に関心があり、中学校 2 年生になると校外学習で職場体験があります。

(学校側)：娘さんは 2 学期定期試験も学年トップでアリアーレの模範生としてがんばって
います。中学生のオープンキャンパス参加ですが大歓迎です。小学生も来たこと
があります。今週から個人懇談会があります。担任の先生から就活等来季に向け
ての話がありますので、よろしく願いいたします。

○尾関之一 委員

2017 卒業生アンケートを通じ、卒業生の母校に対する現状の厳しい目ですが、そ
の理由は見つけづらいものがあるように思えます。サロン経営を通じ、たくさん

の卒業生を迎え入れ、また通信生をお願いしています。サロン現場で元気に働いている姿をお見せすることが学校に対し、一番の報いなのかもしれません。

(学校側)：卒業生の学修成果は、現場のオーナーおよび店長等の意見が必要と考えています。また卒業生・就職先から見た学修成果について、組織的・全学的な取組・検討状況について確認に務めることが大事であると思っています。学校が意図している学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人物像等に関する学修成果が上がっているかはとても気になります。

以上
記録・山口